



暑い夏に、 熱いロマンと学び 〜昔から海外とつながっていた薩摩〜

①仙巖園で異国の薫りにひたる編

おなじみ仙巖園は、全国でも珍しい異国情緒あふれる大名庭園です。薩摩は琉球を通して中国と深く関わり、当時から中国文化の影響を強く受けていたそうです。

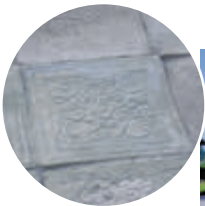
日本庭園でありながら、南国ムードたっぷりのソテツ。桜島を見渡す絶好の場所には、琉球王国から献上されたものと伝わる望嶽楼という東屋があります。



望嶽楼



園内の奥にあるのは、**江南竹林**。1736年に中国原産の**孟宗竹**を琉球を経由して取り寄せ植えた場所です。日本の**孟宗竹**発祥の地といわれています。



琉球らしい
タイルの模様

文字の大きさは、3文字でなんと11メートル！



名勝 仙巖園

- 場所** 吉野町9700-1
- 時間** 8時30分～17時30分(年中無休)
- 料金** 大人1000円、小・中学生500円
- 問い合わせ** ☎247-1551

②維新ふるさと館で日本の南の玄関口・薩摩を知る編

維新ふるさと館では、薩摩と海外とのつながりを楽しく学べます。

中に入って目に付いたのが、薩摩藩が建造した日本初の洋式軍艦**昇平丸**の大きな模型。その迫力と実物の10分の1という精巧さに見飽きません。



地下1階では、幕末に海外を目指した若者たちを描いたドラマ『**薩摩スチューデント、西へ**』が上映されています。幕府が海外渡航を禁止する中、密かに派遣された若き留学生たち。ドラマから、当時の薩摩の熱いチャレンジ精神が感じられます。



大河ドラマ『西郷どん』で有名になった「Cangoxina(カンゴシナ=鹿兒島)」が載っている地図(複製)も展示されています



派遣されたのは、後の初代文部大臣・森有礼や東京国立博物館初代館長・町田久成、開拓使ビール(サッポロビールの前身)の創設者・村橋久成、大阪商工会議所初代会頭・五代友厚など、そうそうたるメンバー

維新ふるさと館

- 場所** 加治屋町23-1
- 時間** 9時～17時(年中無休)
- 料金** 大人300円、小・中学生150円
- 問い合わせ** ☎239-7700



鹿兒島市長
森博幸



夏祭りの季節

晴れ渡る青空に梅雨明けを感じるころ、夏祭りの季節が到来します。六月灯や納涼大会、盆踊りと、7月に入り毎日のように市内各所がにぎわいます。

天文館を鮮やかに彩るのは、古く江戸時代にさかのぼる「おぎおんさあ」です。古式ゆかしい衣装の約3千人が、御所車や山車とともに練り歩く光景は壮観です。「ソイヤ、ソイヤ」と威勢よく、担ぎ手の汗がほとばしるみこしの巡行には、沿道から老若男女の声援が飛び交い、まちが熱気に包まれます。

また、身近な地域で、地元の皆さんが協力して作り上げる夏祭りも楽しいものです。

元氣いっぱいの子どもみこしに手作りの夜店、趣向をこらした演芸のステージなど、わがまちの盛り上がり、気心の知れた者同士、みんなの笑顔があふれます。

夏場の病気の流行や天災からの無事などを願って始められたという夏祭り。時代とともに祭りの様子は変わっても、人々の安らかな暮らしへの願いは今も祭りに受け継がれ、地域の中に根ざしているのを感じます。夏祭りのにぎわいの中に、人々の絆によって大切に育まれてきたふるさとへの伝統や文化が息づいています。